

2025 年度

# SGT 活動レポート

## 第 2 回 陶芸講座 D班

12月17日(水)に第2回陶芸教室D班が行われました。

今回も、静岡市内で「陶芸りんご工房」を営んでいらっしゃる今井林檎先生を講師にお迎えして、前回形成が終わった作品に「高台」を作る「削り」の作業と、飾りを作る作業になります。

はじめに、今井先生から今日の作業について説明をしていただきました。まず、陶器の底についている高台は、実はタッパーや洗面器の底にも同じようなものがついていて、目的は、平らな底よりも安定し、ガタつきを少なくすることができることや、高台に半円形の水抜き穴を開けることで水はけをよくできることなどの話があり、普段当たり前に使っているものにも目立たない工夫がされていることを知りました。それぞれの作品の底の厚みがまちまちのため、最初に水抜き穴を開けて、その厚みを確かめてから削りの作業に入ります。8mmの厚みがあれば問題ないようですが、薄い場合や、形が円形でない場合など、作品によって細かく指導をしてもらい、生徒たちもわからなことを積極的に伺いながら作業を進めていきました。削る場所を決めたら、カンナという道具を使って、高台の内側をていねいに削ります。最後に、世界にひとつだけの作品の証であるサインを削ります。

途中で誤って一部が破損してしまった作品がありましたが、林檎先生がプロの技で修復してくださいました。諦める前に、適切な対処をすることが大切だと感じました。ありがとうございました。

本体の作業が終わったら、作品をテーブルに出して、次の工程に入りますが、その前にいらない道具や削り取った粘土を片付けます。最初の時間に、「片付けができないようではいい作品ができるはずはない」という約束をしましたが、忠実にそれを守ります。

次に植木鉢に添える小物づくりに入りました。生徒たちは、動物や葉っぱなど、自分の作った植木鉢とイメージがあうような小物を、動物の足など、突起物をあまり細長くすると、焼いたときに折れてしまうので、太く短くすることなど、林檎先生の説明に従って作っていました。植木鉢と同じように、真剣に作成を進めました。

次回は令和8年1月21日(水)の予定です。いよいよ釉薬をつけて、焼く直前までの行程を行います。



今井林檎先生が、今日の作業工程を詳しく説明してくださいます。



高台部分を削り落としていきます。



削り取る範囲を決めます。水抜き穴を開けて、暑さも確かめます。



だんだん形ができてきて、作業の手もスムーズになってきます。



今回目指す作品です。こんな風にできたらいいですね。



思い通りの形に整いました。糸でろくろから切り離します。緊張が走ります。



形成が終わったものから、机に並べます。個性があふれています。



植木鉢に合わせる小物のデザインを考えます。